

Der Hafen

(港)

林横浜市長の歓迎を受ける独日協会一行



(歓迎式典でのVondran団長と林市長—横浜市提供)

春爛漫の4月14日、日独パートナー会議（奈良）に出席する独日協会一行を横浜にお迎えしました。歓迎式の会場である横浜港開港資料館で、林市長はじめ市職員と横浜日独協会・湘南日独協会の関係者がフォンドラン独日協会会长ご夫妻、ミョンヒ、ノイエルト両夫人をリーダーとする27名をにこやかに迎えました。

林文子市長は歓迎挨拶で、東日本大震災の直後にドイツから大型ミッションが横浜を訪問されたことは喜ばしく、安心で元気な横浜を是非ドイツに帰って伝えてほしいと述べた後、ご自分がドイツ企業に15年間勤務し、「私はドイツに育てられました。次回は是非横浜で日独交流の会議を開いて下さい。」と述べられ、その温かい親しみある言葉に感激したドイツ人一行の拍手を浴びました。

フォンドラン会長（元・ドイツ鉄鋼連盟会長・連邦議会議員）も挨拶の中で林市長の熱い歓迎に感謝し、「大震災で日独の交流が途絶えてはいけないと思って予定通り来日した。日本は必ず立ち直る。」と語り、このエールの交換は翌15日の日本経済、神奈川両新聞の朝刊が写真入りで、また東京、朝日、毎日等の新聞やテレビ神奈川も報道しました。（次頁へ）

全国日独組織への加盟

横浜日独協会は4月18日、日独交流の全国組織である全国日独協会連合会への加盟が承認されました。全国で59番目の日独交流団体ということになり、58の先輩組織との連携が今後一層緊密になることが期待されます。

J D G Yの新規加盟は、4月25日奈良での第3回日独パートナー会議のレセプションで披露され、また公益財団法人日独協会の機関誌“Die Bruecke”6月号にもJ D G Y早瀬会長が「永久の平和懇親を目指して—横浜日独協会の誕生と今後の展望」と題して寄稿しています。

横浜日独協会会報

発行 2011.6.1 (第3号)

事務局：〒223-0058 横浜市港北区新吉田東2-2-1-913
能登 崇 方
tel & Fax 045-633-8717
e-Mail tak_not@yahoo.co.jp

“マーラーのドイツ語映画を楽しむ”

横浜日独協会 会長 早瀬 勇

大作曲家マーラーの生誕150周年は奇しくも日独交流150周年と重なる。

文化が爛熟した世紀末のワインを舞台に、パーシー・アドロン監督が描く映画「マーラー 君に捧げるアダージョ」は、音楽映画としても劇映画としても十年に一度の傑作だ。そこに登場するのは、不滅の大曲を残したグスタフ・マーラーと、19歳下で美貌と音楽的才能に恵まれた恋多き妻アルマをはじめ、若妻の不倫に悩むマーラーが診察を依頼した著名な精神分析医フロイトや、一世を風靡した当時の前衛画家クリムトなどで、その後世紀を超えて日本文化に大きな影響を与えたドイツ文化圏のきらびやかなスターたちである。

物語は、妻アルマに宛てた恋人（若き建築家）からの熱烈な恋文を見て狂おしく悩む生真面目なマーラーが、休暇中の精神科医フロイトに診察を求めるシーンから始まる。フロイトはマーラーに催眠術を施して、無意識の状態からアルマとの年齢差に起因する病因を探ろうとしてきわどい質問を連発する。診察の際、フロイトがマーラーに横になるように指さすのは粗末な折り畳み式の長椅子（カウチ）だ。ドイツ語の題名“Maler auf der Couch”は、日頃は凜として尊敬を集める宮廷音楽監督が、粗末なカウチに寝かせられる珍奇な情景からとったものと思われる。因みに日本語の題名「マーラー 君に捧げるアダージョ」は、可なり奥深いネーミングだ。未完成に終わる交響曲第十番の第一楽章「アダージョ」には、マーラーの曲には考えられない不協和音が継げざまにあり、若妻の不倫によって悩む作曲者の実生活での不協和音がそこに現われている、というものだ（前島秀国氏）。そう言われて聴いてみると、トランペットの狂おしい絶叫の様な響きはマーラーのパニックそのものに感じられ、題名に「アダージョ」を入れた人のセンスに敬意を表したくなる。

(3ページへ続きます)

横浜日独協会ホームページ

URL:<http://jdgy.sub.jp/index.htm>

(前ページよりの続き)

「独日協会一行の来訪」

この後ご一行は、湘南・横浜両協会員の案内で横浜港やランドマークタワーを見学の後、バスで鎌倉の寺院やロベルト・コッホの碑をめぐりました。最後は稲村ヶ崎のレストランに総勢約60人の日独会員が大交歓パーティーを開き、ノイエルトさんらが配布した「歌のしおり」と能登事務局長のピアノ伴奏で大合唱が続き、大いに盛り上りました。横浜日独協会からは綾田顧問、早瀬会長夫妻、大久保・能登両常務理事、能登夫人、勝亦会員、日独女性団体「アム・ブルンネン」の会員を兼ねる南雲、佐藤、山口会員がバスでご一行に付き添い、夕食会には黒崎副会長、高橋会員夫妻らが参加しました。終日お疲れさまでした。

またこれには後日談があります。ドイツでフォンドラン会長夫人に華道を教えていた南雲夫人が、同夫人へ華道に因むお土産を用意し、また27名全員のために南雲・早瀬両夫人が調達した結婚式の水引きと横浜の絵ハガキ2枚に、更に上記のカラー写真付き新聞記事を夫々封筒に入れて、早瀬会長が奈良でのパートナー会議でご一行の代表幹事ミヨンヒ夫人に手渡しました。フォンドラン会長はじめドイツ人の皆さんへ、横浜のいい記念になったと大変喜ばれました。

横浜と湘南での歓待は、来日直後ということもあってか印象が強く、今でもドイツからのメールに皆様への感謝の言葉が添えられています



(鎌倉光明寺の一行)

ミヨンヒさんからのお礼のメールの全文です。紙面の都合で日本語訳は省略させて頂きました。

Sehr geehrter, lieber Herr Professor Hayase,
sehr geehrte Vorstandsmitglieder der JDG Yokohama,
vor acht Tagen sind die meisten unserer Gruppe gut aus Japan zurückgekehrt. Nur drei hatten die Reise verlängert. Unsere Gedanken gehen oft zurück zu dem wunderschönen 14. April, an dem Sie uns im Historischen Museum empfangen und viele schöne Stunden in Yokohama und Kamakura ermöglicht haben. Im Namen von Frau Neuert und aller unserer Reiseteilnehmer möchte ich mich bei Ihnen allen sehr herzlich bedanken. Der Aufenthalt in Yokohama erinnerte uns nicht nur an die Zeit vor 150 Jahren, es zeigte uns die Stadt von ihrer ganz modernen Seite. Da Sie zusammen mit Herrn Oda alles bestens organisiert hatten, konnten wir unseren Zeitplan sehr gut einhalten. Dafür einen besonderen Dank.

Der ganze Tag stand unter einem guten Stern. Wolkenloser Himmel, blühende Sakura-Bäume mit Hanafubuki, Tsubaki und Sazanka, Bambus-, Kiefern- und Zedernwalder und der Ruf des Uguisu? schöner kann man sich einen Tag in Yokohama und Shonan nicht vorstellen.

Auch der Freundschaftsabend mit guter Stimmung und Gesang trug dazu bei, dass alle Teilnehmer sehr beglückt von diesem Zusammensein waren. Dass es nun auch in Yokohama eine JDG gibt mit so einem freundlichen und wohlgesonnenen Präsidenten ist eine grosse Bereicherung für den ganzen Kanto-Raum. Wir wünschen Ihnen und Ihrer Gesellschaft ein schnelles Aufblühen mit vielen interessierten und engagierten Mitgliedern.

Unsere Rundreise verlief problemlos und es war sehr schön, dass wir Sie in Nara wiedersehen konnten. Unsere ganze Gruppe war sehr überrascht und erfreut über die schönen mit Mizuhiki-Dekorationen verzierten Karten von Ihnen. Sie haben jedes Kuvert mit dem Zeitungsartikel und Ihrer Visitenkarte so liebevoll gefüllt. Für diese wunderschönen Geschenke unseren besonders herzlichen Dank.

Unser tiefer Herzenswunsch ist, dass Ihr Land von weiterer Zerstörung durch Naturkatastrophen und nuklearer Verseuchung verschont bleiben möge. Wir hoffen so sehr, dass die Menschen in den Nord-Ost-Regionen von ihrem Elend durch vielseitige Hilfe befreit werden und das ganze Land sich schnell wieder von dieser Katastrophe erholen kann. Ich kann meinerseits nur sagen, dass ich mich sehr freuen würde, Sie in Bonn persönlich begrüßen zu können. In Gedanken und mit herzlichem Dank wünschen wir Ihnen alles Gute und grüßen Sie herzlich,

Marianne Moench

(Ehrenpräsidentin der DJG Bonn,

Ehrenmitglied des Verbandes Deutsch-Japanischer Gesellschaften)

独日協会の皆様をお迎えして

会員 佐藤 恵美



(筆者と団員のHartmann 氏)

四月の明るい青空に映える桜色に染まった木々。本来ならそんな日本の春の訪れを喜び合う季節になるはずでした。しかししながら3月11日に起こった大きな出来事が、私を含め日本人の心の奥に深い痛みと諦観のようなものを殲のように潜ませていたような気がします。そんな中、4月14日、ドイツから心強い応援団が来日しました。27名の独日協会会員の皆様が横浜・鎌倉を訪れて下さったのです。

横浜開港資料館での歓迎セレブションでは、会長のフォン・ドラン氏が、このような厳しい状況の中でこそ眞の友情が發揮されると言って下さり、改めて長年ドイツと日本の間に培われてきた絆に心温まる想いでした。林横浜市長はドイツ系自動車会社で長年勤務されたご経験をユーモアを交えてご披露され、会場が明るい笑いに包まれました。

資料館の見学後、シーバスにて港内を巡り、ランドマークからの眺望を楽しみました。初夏を思わせる青空と海。お天氣にも恵まれ、港町横浜をご紹介することができました。

お昼は観光バスの中でいただいた横浜名物シュウマイ弁当。あちらこちらから「オイシイデース」という声が聞こえ、一つ一つの食材を珍しそうに味わうドイツ人の皆様と楽しく昼食を終えました。バスの中では、日本人会員との会話も弾み、いつの間にか鎌倉へと到着です。

最初は淨妙寺と報国寺。皆様、境内にある石碑や建物、そして日本の禅の精神を体現しているかのような静謐な竹林にとても興味を示されていました。光明寺では、立派な山門や本堂、お庭を見学し、再びバスで稻村ヶ崎のKoch碑公園へ。夕陽を浴びての記念撮影も楽しい思い出です。予約されていたレストランPeter'sで、その日の最高潮を迎えました。ドイツ語での日本の歌。懐かしいドイツの歌。当協会理事の能登様のピアノ伴奏も加わり、記憶に残る一夜となりました。

その夜、バスで出発される皆さんをお見送りしながら、この一日の交流で触れ合うことのできたドイツの方達の人間性に、何故か目頭が熱くなる想いでした。

その後も、インターネットなどで、ドイツ人会員の皆様が「日本が安全であること」を発信して下さっているのを目になります。本当にありがたいことだと思います。

最後に、この訪問を企画し、あらゆる側面からご尽力いただきました役員の皆様方に心よりお礼申し上げます。

** 歴史と未来を紡いで **

日独交流150周年記念行事

共同通信社・ドイツ通信社(dpa)合同写真展

副会長 黒崎 稔



(挨拶されるシュタンツェル大使と皇太子殿下)

5月21日から日本新聞開館にて開催されている日独合同写真展のオープニングセレモニーが5月20日に皇太子殿下のご臨席を賜り盛大に行われました。当協会が後援している事もあり共同主催である共同通信社・ドイツ通信社からセレモニーへ招待を受けましたので早瀬会長と共に参加いたしました。

シュタンツェル駐日ドイツ連邦共和国大使・林横浜市長も来賓として参加されセレモニー終了後に来賓・招待客全員で写真展を見学しました。

共同通信社とドイツ通信社が所有する報道写真の中から選りすぐられた130点が展示されており「歴史と未来を紡ぐ」と言うタイトルに相応しい日独の深い絆を再発見できる素晴らしい写真展です。

7月31日まで開催されておりますので是非お出かけ下さい。

(1ページよりの続き)

「マーラーのドイツ映画を楽しむ」

映画は小気味よいテンポで、奔放なアルマの恋愛遍歴を映し出し、悩むマーラーを思いやる妹や、アルマの母親など身近な人物の証言を挟みながら、マーラーの精神性豊かで卓越した「楽想力」から逃れられないアルマと、アルマの作曲の才能を封印しながらも、その華麗で「みだらな」ミューズに身も心も奪われていくマーラーを浮き彫りにしていく。フロイト役も好演で、中年男の悩みをめぐるやり取りは、ユウモアを漂わせる。

同じ時期に上映された音楽映画「ショパン 愛と悲しみの旋律」、「ナンネル・モーツアルト 悲しみの旅路」(ともにフランス語)に較べると、歯切れのいいドイツ語の魅力も我々日独協会員にはたまらない。日本語の短い字幕には訳しきれない表現もあり、一方キッチュ(Kitsch= まがい物、子供だまし)のように和訳されずに片仮名のまま字幕にでてくる言葉もあって面白い。こんなに美しいドイツ語の映画も珍しく、会員の老若男女にお薦めしたい。(了)

講演会「福島第一原子力発電所事故を正しく理解する
ために」に出席して



(筆者)

（筆者）
ル3乃至4は訂正され、最悪のレベル7が今月12日原子力安全委員会から発表されるに至った。これは、丁度25年前の4月に旧ソ連で起こったチェルノブイリ原発爆発事故並み、人によってはそれ以上に深刻な事態と言われる。

加えて、放射能に晒された東北産農水産物への出荷規制措置、さらには4月22日から実施の半径20km以内立ち入り禁止措置等々と相俟って、地域周辺住民のみならず国民全体の不安はかえって高まっている。

こうした中、本講演会は湘南日独協会の例会として開催され。当日は、悪天候にも拘わらず多くの聴衆が出席した。講師は、原子力の専門家であり、湘南日独協会副会長松野義明氏。同氏は、長く日本原子力研究開発機構（JAEA）にあって高速実験原子炉の建設と研究開発に従事され、また、最近までロシア原子力潜水艦の解体プロジェクトの技術顧問を勤められた。

原子の構造から始まって、放射性物質の定義、半減期の特性、マスコミに頻繁に登場する放射能の強さ、影響を表す単位のベクレル、シーベルトの説明、具体的な人体への影響の目安量、長期に亘り熱を出す厄介な使用済み燃料、原子炉の仕組み、「止める」、「冷やす」、「閉じ込める」の安全設計の基本的考え方、そして、福島原発事故の具体的な内容とその意味等々、広範囲に亘る事項一つ一つを、講師はスライドを使って多数の図表上に素人にも分かり易く説明された。纏めとして8項目に亘る今後の課題点を、原発専門家としての自省の意を込めて言及されたのが印象的であった。予定時間はたちまちの内に過ぎ、最後に「湘南の人々は安心して日を過ごして貢って結構、しかし、事態は深刻です。」と締め括られた。国外でも大々的に報道された福島原発事故について、今後、事故原因の究明、安全対策と危機管理の妥当性、さらに、より基本的にエネルギー政策に絡めた原発推進策の可否が徹底的に検討されることになろう。その結果は国際的にも注目され、論議されるであろう。

これらは市井の凡人が考えるには余りにも大きなテーマであるが、政策、ひいては政治家を選択する権利を有する選挙民の一人として、筆者自身も考えて行かねばならない。

この意味で、今回の講演会は極めて有益、教えられるところ大であった。機会あらば、本講演続編の実施を期待したい。

(湘南日独協会と横浜日独協会の会員は相互の催し物への参加出席は会員としての会費となっております。)

会員 勝亦 正安

3月11日の未曾有の大災害から1ヶ月以上を経過、地震と津波の災害からの復旧活動は徐々に本格化、さらには復興計画も取り沙汰される一方、福島第一原発の事故については、原子炉の冷却化と放射性物質の漏れ対策が思うような成果を挙げるに至らず、国際的な事故評価尺度で当初言われたレベル3乃至4は訂正され、最悪のレベル7が今月12日原子力安全委員会から発表されるに至った。これは、丁度25年前の4月に旧ソ連で起こったチェルノブイリ原発爆発事故並み、人によってはそれ以上に深刻な事態と言われる。

「会員情報」

○ルクセンブルクの功労勲章受章

会員山岸隆氏（帝人前副社長・現同社顧問技術監）は、同国における帝人と米デュポン社との合弁会社社長としてポリエステル事業の発展に寄与した事由で、「ルクセンブルク大公國功勞勲章オフィシェ賞」を5月16日来日中のクレック経済通商大臣から授与されました。（おめでとうございます）

○東日本大震災の復興支援プロジェクト

会員ハンスー・ヘニング・ユーデック氏は被災地の復興支援を目的としたカーシェアリングのプロジェクト「どこでもエコカー」を立ちあげています。

6月11日の横浜日独協会定時総会で、講演が予定されています。連絡先 Hans-Henning Judek

c/o J.B. Access Ltd. 横浜市中区南中通4-43

電話 045-226-1886

Web: www.docodemoeocar.com

「行事予定」

①5月21日（土）～7月31日（日）日独共同写真展
「歴史と未来を紡いで」 横浜日独協会後援

会場 日本新聞博物館（日本通り）

なお前号で入場無料とお知らせ致しましたが、一般500円シルバー400円です。お詫び訂正致します。関連寄稿を3頁に掲載しております。

②6月11日（土） 横浜日独協会定時総会

時間 15:00

会場 都筑区北山田地区センター 2階中会議室

総会 終了後講演会と交流会を開催します

講演 「震災復興に向けての日独共同プロジェクト」

講師 ユーデック理事（上述会員情報参照）

交流会 お飲み物等用意しております。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

③7月2日（土） 横浜日独協会設立記念演奏会

会場 フェリス女学院大学 フェリスホール

開演 14:00（開場 13:30）

1部 ドイツ大使をお迎えしての記念式典

2部 記念演奏会

入場料 1,000円（全席自由）

横浜日独協会の設立記念演奏会はフェリス女子大学の全面のご支援を頂き、共催となりました。

チラシでもお解り頂けるように、素晴らしい環境のホールに、高名な演奏家の方々がご出演されます。

どうぞ、会員以外の方もお誘いの上ご参加ください。（入場券並びお問い合わせは横浜日独協会事務局へ一報の1頁に記載しております）

~~~~~

## (編集後記)

今回従来の2頁から4頁と致しました。多くの情報ををお届けする事が出来ます。皆様からのご寄稿、情報の提供そしてご意見等お寄せいただきたくお願い申し上げます。 大久保 a-okubo1926@ttmy.ne.jp